

平成29年度 行政評価事業別シート

実計対象		■	評価対象	■	新規	□	完了事業	□	ゼロ予算事業	□	担当者	西條圭
全体計画						経費区分	実施計画事業費		内線		3414	
事務事業名		4160 鳥獣被害防止対策事業										
所 属		150100 産業振興部・農林課										
施 策		05012100 農業の活性化										
予 算		01 一般会計										
科 目		060103 農林水産業費・農業費・農業振興費										
事 業		020000 鳥獣被害防止対策事業										
事業目的						事業概要・効果						
地域、集落の現状と出没鳥獣の全体を把握し、最も有効な手立て（電気柵、わな、檻、緩衝帯整備など）を検討し、鳥獣被害を最小限に留め、農業者の営農意欲の持続に勤める。						・サル・イノシシ用の電気柵・防護柵購入 ・緩衝帯整備に関する事業 ・有害鳥獣駆除業務						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
電気柵2.6km 緩衝帯整備3.9ha	電気柵2.1km 緩衝帯整備1.4ha
平成29年度 予定	平成30年度 予定
電気柵 2.0km 緩衝帯整備 2.0ha予定	
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指標名	無し				
算式					
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					
指標名					
算式					
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					
指標名					
算式					
年度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		平成28年度 決 算	平成29年度 予 算
事業費		17,094	24,207
特 定 財 源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	2,140	3,669
	地方債	0	0
	その他	380	380
一般財源		14,574	20,158
人員数 (人)	正規職員	1.0	0.0
	嘱託職員	0.1	0.2
	臨時職員	1.0	1.0
人 員 コスト	正規職員	7,219.0	0.0
	嘱託職員	275.5	551.0
	臨時職員	1,143.0	1,143.0
	計	8,637.5	1,694.0
市民一人当たりの経費		0.5	0.5
総額		25,731.5	25,901.0

(単位：千円)

平成28年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	2,296	有害鳥獣駆除報奨金
11節 需用費	425	野ねずみ駆除実施薬剤
13節 委託費	1,286	猟友会有害鳥獣駆除委託
15節 工事請負費	864	電気柵設置工事
19節 負担金補助及び交付金	2,526	須坂市有害鳥獣駆除対策協議会
その他	9,697	電気柵材料費

(単位：千円)

平成29年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	1,600	猟友会有害鳥獣駆除委託
15節 工事請負費	1,000	電気柵設置工事
19節 負担金補助及び交付金	3,820	須坂市有害鳥獣駆除対策協議会
その他	17,787	電気柵材料費

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・市が主体となり実施すべき事業か ・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか	高い
評価コメント	被害防除が広範囲及ぶ場合が多いので、各町で対策委員会を組織して電気柵の自力施工と維持管理を行っている	
有効性	・事業の成果は上がっているか ・目標に対する達成度は十分か ・市民生活上の課題解決に貢献しているか ・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか	有効
評価コメント	電気柵の設置と猟友会の捕獲作業により、被害が減少するなどの効果が出ている	
効率性	・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・効率性向上に努めているか ・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか	やや向上
評価コメント	緩衝帯の木の伐採や電気柵の資材購入の費用の負担は市が行い、電気柵設置や維持管理は対策委員会を中心に地域ぐるみの取り組みで行っている	

振り返り（決算年度の取組み課題）

専属の電気柵点検の職員を配置し、順次設置箇所の点検補修を行い機能維持に努めているが、各町対策委員会の理解と協力が必要

ACTION**1次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
電気柵が最も効果のさる対策の一つなので、引き続き地元での対応をお願いしていく。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
有害鳥獣被害が減少している。これは電気柵の効果の現れであるので継続した取り組みが必要である。特に未設置の区域を重点に取組みを行うとともに、地元協議会と連携した維持管理を行う。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	